

創学舎ニユース

No.231

県立入試直前の注意

県立入試も直前となった。公立高校を目標に努力してきた人にとって、その努力の成果がためられる時だ。自分の持てる力を十分に発揮して、志望校合格を果たしてほしい。今回は、直前の注意をしておく。

ケアレスミスは、命とり！県立の入試は、問題が比較的易しいので、合格のためには高得点が必要である。いくら力があってもミスによる失点が多ければ合格はおぼつかない。

字は丁寧に。紛らわしい字はすべて×になるというのは、採点官の話です。

問題はよく読め！ミスをしないためにも、問題をきちんと読むことが必要である。記号で答えるべきものを、語句で答えたりしないよう十分な注意をすること。

理社は試験当日まで、いくらでも伸ばせる！弱い部分があれば、集中的にやること。また、社会は、時事問題も忘れずに目を通しておくこと。

英語は、まず、直前テキストの単語・書き換え・連語を徹底してやること。特に、曜日・月・季節・数字などの基本的な単語は絶対にでるの

に要注意。この部分で失点しなければ、かなり有利に闘っていけるはず。他の項目も直前テキストを繰り返し、完全にできるといって自信をつけておくこと。

数学は、計算ミスを絶対にしないように！また、全問解けなくてもあわてないこと。解けるものから確実に解いていくように。

解答欄はすべてつめること！県立の入試は、比較的易しいのは事実だが、すべての問題に解けるはずがない。当然、分からない問題もあるはずだ。そのときは、得意の勘を働かせて答えを書き入れること。もしかしたら正解かもしれないのだから…。

また、公立入試は、一科目に五教科のテストをし、二科目に面接や小論文など、その学校独自の検査を実施することになっているが、とにかく初日が勝負。五教科の学科試験をしっかり乗り切ることだ。その際、気をつけてほしいのは、悪い科目があっても、それを次の科目にひきずらないことだ。五科目すべてが順調にいくことなどありえないことなのだから。たとえば、

一教科、二教科出来が悪くても、他の科目で挽回。例えば、東葛合格者の中に、国語七十点台という人がよくいることを紹介しておこう。

二科目のことは、一科目がおわってから考えるぐらいでよい。二科目の検査では、余り差はつかないはずだ。ただし、小論文の検査がある

人は、少し準備をしておいたほうがよいかもしれない。

最後に、テスト当日は三十分位時間をとって問題を解いてから家を出ること。そうすることで眠気がとれ、頭が使える状態になるはずだ。

とにかく、もう目の前まで来た。精一杯の努力をして目標を達成してほしい。健闘を祈ります。(小林)

親子の関係(五六)

「頭の良さ」に話を進める。一般的に「頭がよい」というのは、「(勉強の)成績が良い」ことをさす。そして、いわゆる一流高校・一流大学へ進むことがその証である。更に、その「頭の良さ」は、国家公務員上級職や高度な専門職や一流企業に身を置くことで重ねて証明されよう。さらにまた、そういう職にあれば、社会的地位も経済的安定もある程度約束されているので、親から見れば(勿論、本人にとっても)万々歳である。かくして、「頭がよく、一流大学に進み、一流の職場に身を置き、社会的経済的に安定すること」が、相当数の親の願いとなった。今もその願いは根強い。

一方で、「頭がよい」といわれる人達が「成績のよさ」以外の部分では、必ずしも「良い」わけではないことも分かってきた。このことを更に明確にすること、そして「頭の良さ」とは何

教育「名言」紹介(6)

なのかを定義することが次の目標だが、以下次号。(小林)

人生まれて小幼(しょうよう)になるときは、精神専(もっぱ)らにして利(と)く、長成(ちやうせい)は固(もと)より須(すべ)か(らく)早く教えて機を失(う)つこと勿(な)かるべし。

《出典》顔之推(がんとし)い)

中国、五三二 五九一 『顔氏家訓』

解説 北斉の顔之推が早期教育を勧めた言葉である。見出しの言葉に続けて、顔之推は、

私は七歳の時 王延寿 おうえんじの

魯(ろ)の靈光殿(れいこうてん)の賦(ふ)

を暗唱(あんてい)したが今日まで一〇年に一度の復習

でもなお忘れない一〇歳を過ぎてから暗唱

した経書(けいしょ)は一月も放(はな)ておくともう忘れて

しまっている

と言(い)つ。「魯(ろ)の靈光殿(れいこうてん)の賦(ふ)」は、「文選(もんぜん)もつげ

ん」(巻一)に収められており、「序(しよ)」を含める

と二三〇〇字を超える作品である。成人してから暗唱(あんてい)することは容易(やす)ではない。

これだけ読むと、顔之推(がんとし)は早期教育(さうきよく)の有効性

についてだけ述べているようであるが、さらに

次のように続ける。

孔子(こうし)は 五〇歳(ごじゆ)ころまでに 易(えい)えき

を学んだなら大きな過ちは犯さないですむ

と言っている三國魏ぎの武帝や遠遣えんいは老いてますます勉学心が厚かたこれらの人々は若いときに学んだ上に老いてもなお学び続けた

孔子の弟子の曾子 そつし は七〇歳にな

て学問を始め 天下に名を馳はせた 戦国末の荀子 じんし は五〇歳になて初めて齊に遊学し 大学者とな た 前漢の 公孫弘 こうそんこう は四〇歳を過ぎてから 春秋 しんじう を読み そのおかげで宰相にな た 同じく前漢の朱雲 し

うん も四〇歳で初めて 易経 えききう と 論語 を習っている 以上の者はみな大

学者とな た これらの人々は若い頃はた わいもなく過こしたが 年をとてから自覚 したのである

世間の人は成人して結婚するまでに学問をしていないと もう遅いと言 てあきらめてしまうしかしそれは愚かである 幼くして学ぶのは 日の出の光のようであり老いてから学ぶのは 明かりを手に持 て夜道を 行くようである それでも 目をつぶた まま物を見ようとしないう者よりは はるかに 勝っている

顔之推は、幼少の頃から勉学を始めて、孔子や魏の武帝のように、老いてもなお学び続ける

のがベストであると考えている。しかし、曾子や荀子のように、晩年になってから学問を始め、大学者になった例を挙げて、晩学は進歩が遅いかもれないが、晩年になつても学問をすべきである、と言つ。

こうしてみると、この文章全体は、早期教育の勧めというよりも、生涯にわたつて学び続けること、若い頃に学ぶ意欲のなかつた者は、晩年になつてからでも学ぶべきであることを説いたものであると言えよう。

(アガトス教育研究所)

受験生の皆さんへ

公立高校一般入試を受ける中三生の皆さん、志望大学の残っている高三生の皆さん、あと少しですね。精一杯がんばつて下さい。

ところで、いよいよ本番というときになつてアガつてしまつ人、緊張しすぎてしまつ人はいないでしょうか。そんなとき、人は自身の持っている力をなかなか発揮できないものです。ここぞというとき、緊張したり、アガつたりするのは特別なことではありません。普通のことです。しかしそうはいつても、わかつてはいるけれどもうまくいかない、どうにもならない、このような人は少なからずいると思います。じつ

は私も同じです。私の場合は緊張しすぎて、手がふるえてしまいます。ときには全身がふるえてしまい、立っているのがやっとということも

あります。そこで、本番のアガリ対策、緊張をやわらげるための小さな工夫の仕方を紹介したいと思います。

昔から緊張を抑える方法として、手の平に人という字を三回書いて飲み込むというものがあ

ります。しかしもう少し効果のある方法があります。

人間は精神の緊張状態を、体のある部分を使ってやわらげようとする傾向があります。たとえば服のどこかをいじっていたり、くちびるを

何度もなめていたり、まばたきの回数が多くなつたりなど、無意識のうちにやつてしまつてい

ます。これらは精神の緊張をやわらげようとする本能的な行為なのです。人間はこのような精神状態のとき、体のどこかに力がいつていた

り、かたくなつていたりしますから、どこか別の部分でその力を抜こうとしているのでしよう。だからそれを逆に利用するのです。意識的に体を動かすのです。そうはいつてもまさか試験中に体操するわけにはいかないでしょう。また会場へ行く途中の電車の中で体操をするのははずかしいのではないしょうか。そこで最も簡単なことは、手を動かすことです。指先の適度な運動が、心が緊張や不安に支配されるのを未

然に防いでくれます。

具体的な場面でいうと、試験会場で自分の席に着いたら、消しゴムを何度も握つてみる、指を順番に折つてみる(ついでに数をかぞえようと不思議と集中力が高まります)。会場につく前であれば小さなお守りでもいいですからいじりまわす。

アガリや緊張は大事を前にしての心理的、生理的準備運動なのだから、ある程度はあたりまえです。しかし度が過ぎるとうまくいかないことがありますから、以上のような方法を知つておいてもよいと思います。

最後になりますが、私は大学受験、五つの大学を受験しましたが、一番目に受けた大学から四番目まではすべて落ちました。最後の大学だけ合格しましたが、そこが第一志望だったので、幸運だったのかもしれないし、まぐれだったのかもしれないのですが、最後までやり抜いたという思いがあります。皆さんもこれから受けるところが第一志望だと思います。ですから最後の最後までやり抜いてください。そしてやり抜くことがアガリや緊張をやわらげる一番の方法なのです。力でねじふせてやりましよう。勝利の女神がほえむことを祈っています。

(長谷川)

卒業や転校等で創字舎を離れる方にも、ご希望があれば、創字舎ニュースを無

2005年(平成17年)2月15日(火曜日)

料でお送り致します。在籍した教室までご連絡下さい。